



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
（奈良県保健環境研究センター内）



● **今週の概要**

■ **今週の感染症情報**



（調査週）平成 24 年 第 35 週 8 月 27 日（月）～9 月 2 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	1.69	→	→	→	→～↓
2	ヘルパンギーナ	0.49	↓	↓	→～↓	↓
3	咽頭結膜熱	0.40	→～↑	↑↑	→	↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.40	→～↑	↓	→～↑	↑↑
5	突発性発しん	0.34	↑	→～↓	↑	→～↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は56例で、前週報告の46例からやや増加。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②ヘルパンギーナ＝伝染性紅斑、③水痘＝咽頭結膜熱の順。伝染性紅斑の報告数（7例）は、やや増加。咽頭結膜熱の報告数（4例）も、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（21例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（4例）も、ほぼ横ばい。ヘルパンギーナの報告数（7例）は、やや減少。奈良市HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が1例あった。また、郡山HC管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎が2例（1～4歳児、5～9歳児）報告された。

（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、82 例から 92 例と増加した。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ、突発性発疹、RS ウイルス感染症・水痘の順であった。感染性胃腸炎は、36 例、咽頭結膜熱は 10 例と、ともに横ばいである。ヘルパンギーナは 10 例と減少傾向である。眼科定点からは、流行性角結膜炎 1 例の報告が、桜井保健所よりあった。基幹定点からの報告はなかった。

(高木 記)

県南部地区概況 報告数(第 34 週→第 35 週)は 9 例→10 例と推移。報告のあった疾患は、①A 群溶連菌咽頭炎(3 例→7 例)、②感染性胃腸炎(2 例→2 例)、③突発性発疹(1 例→1 例)であった。

(柳生 記)

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm

